
哀しみを愛へ

桜草

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

哀しみを愛へ

【Nコード】

N7321D

【作者名】

桜草

【あらすじ】

解毒剤が見つからず《江戸川コナン》として生きていくことを決意したコナン。生きていくことを決意し、戻ってきた哀。すれ違い、ぶつかりながらも恋は進んでいく……。 (中学生コ哀及び、中学生少年探偵団の恋物語です)

FILE 0 :: プロローグ

俺は江戸川コナン、探偵だ。

黒の組織に開発途中の毒薬を飲まされ、幼児化させられたが・・・

阿笠博士、西の名探偵、警視庁、CIA、FBI・・・そして灰原哀の協力もあり

苦勞して証拠をつかみ、激しい戦いの中——黒の組織が解体され、奴らも捕まった。

怪我を負い、戦いによる費用、時間を失いながらも・・・大切なものは守り通した。

大切なものは・・・

そしてこの世に、平和は戻ったかのように見えたが・・・。

解毒剤のデータは奴らにより削除され、見つかることは二度となかった。

《もう薬のデータはない。》

工藤新一は帰ってこない

くどうしんいちのかえってこない

クドウシンイチハカエツテコナイ・・・

幼なじみの彼女の涙が、全てを悟った。

『帰ってくるって・・・信じていたのに・・・。』

そして俺は・・・【江戸川コナン】として生きることにした。
今思えば波乱な決断だった。

待っている大切な人がいた。守ってくれた両親・友人もいた・・・。

『どうして・・・？』

忘れられないのは、決断を口にしたとき・・・薬を作った張本人の彼女の表情。

張り裂けたような哀しみ、怒り・・・。

全てを背負い込み、彼女はイギリスへと・・・旅立った。

たった一つの約束を残して・・・

『絶対に・・・帰ってくるから・・・』

今、彼女は・・・

どうしているのだろう――！。

FILE0::プロローグ（後書き）

どうも桜草です！

私が最も好きなコナン×哀……。未熟ながらも頑張って書いていきたいと思っています。

コ哀ファンの方、少年探偵団が好きな方……。また、そうでない方も読んでくださると嬉しいです。

かなりの長編になるかとは思いますが、よろしくお願いします。

FILE 1…これが始まり

春風が穏やかに、流れてくる。

季節はもう春だ。

部活の帰りだからだろうか、学ラン姿の連中が点々と見える。

「コナン君ー！」

元気な声がした。

吉田歩美。

少年探偵団のムードメーカー的存在だった。

おかつぱヘアだった髪は、肩につくほどのセミロングに変わってる。

「あ、歩美ちゃん。片付け終わった？」

「何考えてたの？ぼくっとして・・・何考えてたか当ててあげよっか？」

丸い瞳は、小学校の時から変わってない。
何かを探るような表情・・・これもまた、変わっていなかった。

「哀ちゃんのことでしょう？ 実は歩美もそう思ってたところなんだ。」

「ああ、もう6年だよな・・・あいつが外国に行っちゃってから。」

「うん、そうだね・・・。」

寂しそうに、下を向いて笑う彼女を見て思った。

もう6年・・・早いものだ。

『時の流れに人は逆らえないもの・・・』

茶髪の彼女が言った言葉が、頭から流れて・・・消えた。

「コナン君？ちゃんと聞いているの？」

「え・・・ああ悪い。で、何？」

歩美の顔が、一気に曲がる。
喜怒哀楽。

それもまた、変わらない。

「もおく分かってるでしょ、来週みんなで勉強会！テストがあるんだから。」

「・・・また勉強になんないんじゃないかねーか？途中でサッカーやろう！ってことになって。」

「平気平気！今度の日曜日、博士の家でね♪」

ウインクをしてさっていく彼女を見送って、
なぜか帝丹小学校の前の、桜の木にたどり着いた。

花びらが咲きかけているつぼみを見上げる。

どうしてここに来たのだろう・・・。

6年前も、ここに来ていた。

散る花びら、たたずむ彼女・・・

ガザッ

突然、微かながら木が動いた。

人影・・・。

緩やかなウェーブの、赤みがかかった茶髪。
切れ長の綺麗な瞳。

まさか・・・

FILE 2：再会、そして復活

・・・灰原・・・？

彼女も目を大きく開いて、此方を見た。

「江戸川君・・・」

灰原哀。

待っていた・・・この場所に、来るのを。

「・・・約束・・・だったわよね？ここに帰ってくるのが。」

「ああ・・・。」

ずっと、想ってた。

必ず、帰ってくるって・・・

フツと笑みをもたらし、瞳を揺らした。
変わってない君、変わってない自分・・・。

「吉田さんたちは元気にしてる？」

「まあな。歩美はテニス部、元太と光彦は俺と一緒に・・・サッカー部。」

「仲がいいのね。」

「まあな。」

元気にやっている。
変わらない。

子供心のまま、くつきりと。

「じゃあ、ちょっと博士の家へ行ってくるから。来週・・・私も中学生だし転校する準備が必要なのよ。」

「はあ？そんなに大変なのか？」

「当たり前よ。こう言っちゃいけないけど、《灰原哀》は戸籍上にいない人物・・・」

「入学に必要な資料を、そっくりそのまま作んなきゃいけないってわけか。」

その通りと言うふうには、彼女は微かに微笑み博士の家へ姿を消した。

戻ってきた。

灰原哀が戻ってきた。

クールで怪しげな瞳、意味深な台詞。

何よりも頭がキレる。

「おい！コナンくん！」

歩美、光彦、元太がやって来た。

「ん？どうしたんだよ？」

「大変なの！元太君のサッカーボールが木にひっかかっちゃって！」

歩美がおたおたと、話す。

すかさず、突っ込んでみた。

「・・・おい。どーやったら地面で蹴るはずのボールが、木の上にひっかかるんだよ。」

「そのサッカーボールでキャッチボールを、してたんです！」

おめーら野球部じゃねーんだから・・・

「変な理屈言わないで、助けろよコナン！」

「はいはい。」

手も引っ張られ、歩美たちに急かされた。
返事をして立ち上がる。

灰原哀が、戻ってくる。

少年探偵団・・・復活だ。

FILE 2：再会、そして復活（後書き）

哀ちゃんが戻ってきて、少年探偵団も復活ですね〜w
少年探偵団の元氣は、中学でも健在だと思います！

さて。

新一と蘭の、やりとりを見たいと言う方がたくさんいらっしゃるみたいです。もちろん書きます！

新一が帰ってこない理由が、あいまいでしたら・・・いやですものね。

新蘭ファンの方にも、いや方にこそ・・・是非見ていただきたいです。では

FILE 4 :: 組織のこと・・・

博士の家で、勉強会。リビングに行こうとしたら・・・

「哀ちゃん!! 帰国、おめでとー!!!」

え？

「急ぎよ、企画していた勉強会を取りやめて・・・灰原さんの帰国パーティーを行うことにしたんです!」

「びっくりしただろ、灰原!」

「ええ、私のためにやってくれたのね・・・ありがとう」

色とりどりの・・・飾りつけ。
私のために。

やっぱり楽しいわね・・・

騒がしいけど、どこか落ち着く。
組織では、静かだったけど・・・怖くて・・・

・・・思い出しちゃいけない――。

「どうしたんですか、灰原さん。怖い顔して。」

「何でもないわよ。」

こんなに盛り上げてくれている仲間がいるのだ。

今は、楽しもう。

「ったく。やっぱり潰れたじゃねーか、勉強会。」

「しょうがないだろ、灰原が帰ってきたんだし・・・」

江戸川君と小嶋君が言い合いをしている・・・。

こんな風景・・・前にも・・・

『お姉ちゃん！なんでDVDをここに置いたのよ。薬のデータと混

ざっちゃんじゃない!』

『細かい事なんて、気にする必要ないわよ。もお! あなたはいつつ
も薬ばかり・・・』

お姉ちゃん――

「・・・灰原? どうした?」

「哀ちゃん・・・? どうしたの。」

意識が戻る。

どうして・・・思い出すの?

せっかく楽しいパーティーを・・・私のために・・・

「ごめんなさい。ちょっと疲れたから自室に・・・」

逃げてばかり。

こんな私・・・最低だ。

FILE 4 :: 組織のこと・・・(後書き)

哀ちゃんを苦しめてしまっでごめんなさい！
やっぱりコ哀は、書きやすいです。
どんどん更新出来ちゃいますよ。

次回から本格LOVEモードですね。

FILE 5：生きてる価値

いつまで逃げているんだろう・・・

自分でも、ふとそう思う。

6年前から使っている、自分の椅子が少しきしんだ。

イギリスへ・・・お母さんの実家へ行ったら・・・もしかしたら薬のデータが見つかるかもしれないなんて、甘かったわね。

ずっと探しても見つからず、自分で作ろうにもデータがなければどうしようもなくて・・・

結局6年間、無駄な時間だったかしら。

ホント、バカみたいだね私・・・。

「灰原！」

彼の声。

ずっと呼んでくれた・・・そんなふうに呼ばれる資格なんて、私にはもうない。

彼の顔を見たくなくて、机に顔をふせる

「どうしたんだよ。せつかくあいつらが、考えてくれたじゃねーか。

」

いつまで逃げてるんだよ、灰原。

彼の心の声が、した。

顔をあげて、真正面から相手の事を見る。

複雑な・・・どこか寂しそうな顔をしていた。

「ごめんなさい」

「何がだよ。俺に謝ったて・・・」

「・・・葉のことよ。」

それから彼に、全てを話した。

葉を作ろうとしたこと・・・データが見つからなかったこと・・・組織のことを思い出してしまうこと・・・

もう、思い出したくないのに・・・



話を聞いて、俺は驚いた。

まさか・・・解毒剤を作るために6年間も、時間をかけて・・・

「・・・もういいって言ったじゃねーか。『俺は江戸川コナンとし

て生きていく』って・・・

いつまで苦しんでるんだよ。組織は解散した、だから・・・」

「それはあなたの考えよ・・・私は・・・あの薬の解毒剤を作らなければ、罪は晴らせなかったの。」

《灰原哀》は組織から逃げるための身体、そして解毒剤を作るために存在した・・・そうでしょ？」

お互いに、眼をふせる。

頭のはしが、ズキンと痛んだ。

ちがう。

違うよ、灰原。

そんなただけに、お前は生きてるのか？
違うだろ・・・。

目の前の彼女の瞳が、僅かに揺らいだ。

正論に聞こえるが、間違っている。

「そんなためじゃない。灰原哀には、仲間がいる。一人じゃねーじやねーか！」

自分の声の大きさにびっくりする。

自分自身を落ち着かせるために、慌てて手を握った。

「じゃあ、あなたは・・・」

灰原は、息を少し吸って真正面を見た。

「え？」

「彼女は怎なのよ! ずっと・・・ずっと待ってたんじゃないの?」

『ずっと待ってたのよ! 新一!』

心の中で、蘭の声がした・・・。

FILE5..生きてる価値(後書き)

どうも、桜草です。

文章の方を、お二人に指摘され時間がかかりました！（書くのが）
本当にごめんなさい・・・。

描写って結構大変ですね・・・更新は遅くなるかもしれませんが、
頑張ります！

また、お一人様に『ケータイ小説のよう』と指摘されましたが許可
を得、（掲示板にて）今後ケータイの方にも読みやすいように、形
式は変えないつもりです。
本当にすみません！

更新が遅れて、ご迷惑をおかけしました。
では

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7321d/>

哀しみを愛へ

2010年10月9日01時14分発行